

府中市立国府小学校の能楽授業

喜多流 大島能楽堂



これから自分たちが演じる「狸々」の物語を
大島先生が紙芝居で説明



女性部会員も生徒に合わせて イヨー！



「すり足」「扇の扱い方」「構え」
皆そろって舞の練習



緊張の連続の中に、楽しい事もあります

「凜として」

「凜として」という言葉があります。辞書で引くと「態度・容姿などがきりりとひきしまっているさま。声や音がよく響くさま。」と書いてあります。まさに、大島先生や加藤先生にびったりの言葉です。

背筋をしゃんと伸ばして、おなかから発せられるよく通る声。大島先生や加藤先生の立振る舞いを見ていると、その美しい姿に見とれてしまいます。

「私たちも練習をすると、もしかしたら、先生達に少しでも近づけるかもしれない・・・」と、子ども達の憧れの瞳は、そう語っているようです。たった1日で、子ども達は見事に「能の世界」へ引き込まれてしまいました。



大島先生と加藤先生から、さっそく、笛や太鼓の手ほどきを受けました。緊張気味でしたが、とても楽しそうでした。



正座もがんばりましたよ。10分くらいでしたが・・・

私は能をやっている人は、男の人やおじいさんがしているイメージだったので、大島さんと加藤さんが出て来た時、びっくりしました。それに、小鼓や太鼓を打つとき、きれいなお姉さんが大きな声で、

「イヨーッ」

「ホーッ」

と掛け声をかけたので、見た目と全然ちがってますますびっくりしました。

最後に、お二人が「狸々」を舞ってみせてくださいました。大島さんの舞う狸々は、本当によっぽらっついて、ふらふらしている様子がよくわかりました。



加奈子

＜俳句日記より＞

大島さん 声の力に 圧倒され
剛

能体験 日本の歴史受け継いで
亜美

面つけて 心表す お能かな
心乃佑



「礼に始まり 礼に終わる」

扇の持ち方を教えていただき、まずは、両手を前についで、美しいあいさつのしかたの練習です。

「おけいこの相手の方へのあいさつだけではなく、たくさんの人に支えられていることへの、感謝の気持ちをこめましょう。」という先生の言葉が心に響きました。「本当にその通りだなあ。何事も感謝の気持ちが基本だな。」と深くうなずきながら教えていただきました。



家で正座の練習をしています。10分はできると思っただけで、8分45秒しかできませんでした。感想を書いている今も、足がしびれていたい。20分やっても、よゆうでできるよう練習します。
真紀

<俳句日記より>

こまやかな舞の動きで暑さわすれ
あずみ

先生の声の迫力はんばじやない
美々

正座した足の痛みも熱章かな
麻



「謡」

3回目の能のおけいこは、グループに別れての練習です。各クラス希望者12人が「舞」グループ。その他の人は、「謡」グループです。



「謡」の方は、毎日毎日練習して、もう全部覚えた人もたくさんいます。ふと気がつくと握々を口ずさんでいる人もいます。謡の声もだんだん力強くなっています。



「舞」

「舞」はこれからが勝負です。「すり足」「構え」「開き」「扇の扱い方」もまだおぼつかないのに、「大左右」「打ちこみ」など動きの型をたくさん教えていただき、終わった後はパニック状態です。でも、やりぬきます。

今日は謡の練習をしました。あらかじめ、CDで聴いて練習していたので、先生のおっしゃることがよく分かりました。上げるところ、下げるところ、止めるところ、のぼすところ……
たくさん学ぶことがあって大変だったけれど、楽しかったです。

舞の練習もしました。扇の開き方や閉じ方。基本の動作の「すり足」舞の基本の「かまへ」など、とても難しかったです。練習して、上手に舞うことができればいいと思います。
次の授業の時までには、大島先生や加藤先生がびっくりするくらい、上手になっておきたいです。
佳穂

<俳句日記より>

能練習熱気に満ちた体育館
美咲

扇持つ手に汗にじむ舞の技
詢

汗流し正座しながら謡する
優子

集中で痛む足をふきとばす
奈緒美

子ども達が座った後の床が、汗でぬれている。むし暑い体育館での能の練習。

足はしびれるし、汗は流れるし、のどはかわくし、おまけに難しいし……でも、くずれそうな心と体を自分で立て直し、暑さと足のしびれとたたかいつつ、最後の最後までやりきった6年生。「能」は確かにあなた達を育てているね。